

指定発言（課題提起）

障害者放送協議会シンポジウム

一般財団法人 全日本ろうあ連盟

「字幕放送」の課題

大都市圏と地方の地域の格差

地方局が放送する
災害時の緊急放送等に字幕が付かない

**地域の住民にとって、その地域での災害時の
緊急放送等は生きのびる上で重要な情報である**

「手話放送」の課題

オリパラ開閉会式の手話言語付与

【背景】

当初、オリンピック開会式は字幕放送のみ。

全日本ろうあ連盟を含む関係団体の要望活動により、
閉会式からEテレで手話言語を付与しての放送がなされた。



東京2020オリ・パラは「**多様性を尊重する共生社会**」を謳っていたにもかかわらず、**手話言語に対する社会的認識が足りないために起こった課題**

また、総合テレビではなくEテレで放送したことは、医学モデルの思想が残っていることを表している。

「手話放送」の課題

「手話言語」 ≠ 「字幕（日本語）」

「字幕があれば、全てのきこえない・きこえにくい人の情報アクセスが保障されている」と思い込んでいないか
言語を手話言語としている人の存在を意識していただきたい

指針での目標数値が“**週15分**”

民放では**目標数に満たない地上系民放が29局、実績ゼロが10局**
NHK総合は**週43分**、Eテレ週4時間**26分**

→**総放送時間に対する割合に直すと0.4%（Eテレ：3.1%）**

韓国では手話言語付与の目標数値は5%（実績6%）

↓
「誰一人取り残さない」SDGSの理念にそぐわない

課題に対する提案

放送分野における情報アクセシビリティに関する指針 の見直しにおいて

「字幕放送」

- ・ 地方局における災害時緊急放送や独自制作番組の字幕付与の目標数値の設定を。（「手話放送」も）

「手話放送」

- ・ 総放送時間に対する時間（【%】）を目標数値に。

障害者差別解消法と
整合性が求められる

なお、総務省視聴覚障害者等向け放送に関する研究会報告書の16～14ページによると英国、韓国は手話放送の目標値を%で提示している。